

◎チェルノブイリ救援・中部では、戸別訪問による募金活動は一切しておりません。不審なカンパ要請には充分ご注意ください。

ポレーシエ

・・・チェルノブイリに思いをよせて

チェルノブイリ救援・中部 事務局から 1994.5.22 No.22

いのちのゆりかご

キャンペーンを開始しました



図：救援・中部のステッカー

チェルノブイリ原発の事故から8年、これは何度もこの誌上で繰り返しご紹介したことでありますが、子供たちの健康に深刻な影響が続いています。最近では、流産、早産、出産異常が増え、新生児の死亡率が高くなっています。

そんな中、昨年暮れ救援・中部メンバーが現地の小児病院を訪れた際、医師たちからの「何とか赤ちゃんの命を助けたい、いまずぐ最低7台の保育器が欲しい」という強い要請がありました。この呼びかけに応え、私達は今回初めて“いのちのゆりかご”キャンペーンを始めることにしました。保育器は一台約80万円と高額ですがなんとか7台を目標に現地に送りたいと思います。いつものお願いで恐縮ですがどうぞ協力下さい。

尚、このキャンペーンはチェルノブイリ救援・岐阜と大垣ムラサキツユクサの会が担当します。詳細は次頁をご覧ください。

今年の子供では、夏に一昨年来日した女性医師リュウダさんが、医療研修を受ける他、現地の移住基金代表でジャーナリストでもあるキリチャンスキー氏も同時に来日し、“いのちのゆりかごキャンペーン”への呼び掛けを行うことになっています。

また現地へ送った粉ミルクが無事到着し、病院等へ渡されました。あらためてこのキャンペーンにご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。

～未熟児は事故前の1.9倍に増加～

(ジトーミル) 州立小児病院では、現在9台の保育器が稼働しています。少なくともあと7台必要です。年間で当病院は10,000人の赤ん坊を扱い、このうち8%が未熟児です。昨年には790名でチェルノブイリ原発事故の前に較べると1.9倍に増えました。病院のアルチュフ医師によると中部よつ葉会が保育器一台を(ミルクと一緒に)送ってくれたのに感謝していますが、今の需要を満たすのは困難です。でもあなた方は私達のために沢山のことをしてくれているのでこれ以上お願いすることはできません。(1994.4.27 V. キリチャンスキー)

いのちのゆりかごキャンペーン

主催：チェルノブイリ救援・中部

キャンペーン実施担当：チェルノブイリ救援・岐阜
大垣ムラサキツユクサの会

期間：今年6月～9月末

募金方法：1口 2000円

郵便振替口座番号：チェルノブイリ救援・岐阜 00850-5-6531

またはチェルノブイリ救援・中部口座(最終頁掲載)でも可。

キャンペーンの問い合わせ先：〒502 岐阜市長良東郷町2-9

後藤 美知子 TEL:0582-94-4520

岐阜市大門町12 上宮寺

小笠原まや TEL:0582-65-3868

FAX:0582-72-2348

私達はこのキャンペーンを通じて、V-850アトム保育器 という約8000円の器械を現地小児産婦人科病院に送ろうと考えています。1口2000円だと1台購入するのに400口必要で達成までなかなか大変ですが、学校のクラス単位などでご協力して頂ければと願っています。

またこのキャンペーンのために、Tシャツ、ステッカー、ポスターを製作し販売することにしました。(表紙参照)

Tシャツは一枚1500円、ステッカーは1枚200円で販売する予定ですが、1口2000円のカンパを頂いた方にはオリジナルステッカー1枚をお送りします。

○チェルノブイリの惨禍は、第三次世界大戦（報告：V. キリチャンスキー）

公式のデータによれば、現在ウクライナでは5カ所の原子力発電所で12基が運転中である。1993年には全電力の32.9%が原発で作られ、チェルノブイリ原発では6%が作られた。

これらの原発では1993年中に239回の事故が発生し、そのうち62回は運転停止事故、109回は送電停止事故であった。1993年の9カ月間に職場を離れた資格のある専門家の人数である。

エズノーウクライナ原発	: 200人	チェルノブイリ原発	: 147人
ローベン原発	: 174人	ザポロズ原発	: 440人
クメルニツ原発	: 140人		

チェルノブイリの惨禍は第三次世界大戦と呼ぶにふさわしい。次の数字から自分で判断して下さい。ウクライナの領土の45%は1平方キロメートルあたり1キュリーを越える放射能で汚染され、500万ヘクタールの土壌が農地として使えなくなった。最近の経済的損失は215億カルポバネツ（1円=122カルポバネツ）に相当する。キエフ、ジトーミル、ロヴノの各州の45000平方キロメートルは緊急に環境保護対策を立てなければならない。貯水池ではセシウムの放射能濃度は毎年49%ずつ上昇している。科学者たちの予想では、原発事故による病気の増加は3500万人に上る（ウクライナの総人口は5100万人）。現在、15万人が放射性ヨウ素による甲状腺の病気にかかっている。病気の子供の数はジトーミル州だけでも4~6倍増加した。妊婦の異常はほぼ3倍に増えた。次のような増加も認められている。：呼吸器系の病気1.3倍、血液循環器系1.9倍、消化器系2.7倍、内分泌器官系2.1倍、生殖器の異常1.8倍。

国の回復計画は未だに達成されていない。（そのために）500億カルポバネツが不足している。州人口の27%に当たる417,000人の住民が公式に汚染地域と認められた所で生活している。計画と実際に作られたものを較べると、住宅は9280戸のうち3871戸、学校は48のうち6、幼稚園38のうち9つ、病院14のうち1つ、診療所15のうち1つしか建設されていない。放射能の増加によってジトーミル州では16カ所をこえる移住地からさらに強制移住地域に移転しなければならなかった。原発事故の收拾にあたった作業員のうち、ジトーミル州ではこれまでに74名が死亡した。こうした実状にもかかわらず、人々は厳しい禁止を破って自分の家に戻っている。1993年には254名が帰った。そのうち20名は14才以下の子供である。帰って来る理由は、新しい都市で満足できる生活が作られていない、という事である。電力エネルギー担当副大臣、W. ホワイトを代表とするアメリカ合衆国代表団は、チェルノブイリを訪問し、この原子力発電所を直ちに閉鎖すべきだという見解を表明した。（以上）

粉ミルクが現地に無事到着しました

移住基金（現地受け入れ窓口、ウクライナ・ジトーミル市）から、チェルノブイリ救援・中部の送った粉ミルク4552缶およびスキムミルク50袋（20キロ入り）が無事到着し、下記の病院等に配分されたと報告がありました。

（5月4日FAXにて）

1) 州立小児病院：	2496缶、	20袋
2) 市立小児病院：	1000缶、	14袋
3) ジトーミル総合病院：	400缶	
4) " 幼児院：	296缶	2袋
5) ボリンスキー幼児院：	96缶、	1袋
6) ボリンスキー地域中央病院：		3袋
7) イメルチノ地域中央病院：		2袋
8) コーラステン地区医療センター：	200缶、	7袋
9) ボルダルスク・ボリンスキー地域中央病院：		1袋
10) ジトーミル州子供基金：	50缶	
11) 移住基金委員会の子供達：	11缶	
12) 安全検査用：	2缶	
13) ヤゴーチン税関検査用：	1缶	
合 計	4552缶、	50袋

移住基金：従来救援・中部は、ジトーミルスキー・ヴィスニーク新聞社をこれまで現地の救援窓口としていましたが、新聞社の経営状態などが不安定であるため、以前より私たちの救援窓口の主体としてこれまで新聞社を支援してきた移住基金を、私たちは正式な救援窓口としました。移住基金は、現地の医師や弁護士、ジャーナリストによって構成されている市民によるボランティア団体です。

「救援・中部」代表の交代のお知らせ

長谷川三知子さんに代わって、代表に「チェルノブイリ救援・岐阜」代表だった寺町みどりさんが選出されました。「みどりさん」と呼んであげてください。5人の子供の母親で、町議会議員の傍ら農業をしておられます。みどりさんは、とても忙しい身ですが、救援・中部では誰にでも出来る代表をめざしてがんばってもらうことにしました。ただし救援活動のあらゆることについては定例会で各メンバーが上下なく討議し、決定することはこれまでと変わりません。（顔写真を載せようかと思いましたが、いやがるだろうからやめました。：編集者談）

今年4月13日より3日間、広島で開催された日本原子力産業会議による原産年次大会に対して、チェルノブイリ救援・中部では下記の抗議文を送りました。

抗議文

人類史上、未曾有の放射能被害をもたらした「地球被曝」とも形容された、チェルノブイリ原発事故からもうすぐ8年を迎えようとしています。数百万人にも及ぶ人々が未だに放射能汚染地域に暮らし、とりわけ子供たちの健康は侵され続けています。ウクライナにおいては、健康といえる子供は5～8%しかいない、と現地の便りは伝えてあります。原発事故によってもたらされた事態を「生態学的破滅状態」として（ウクライナ）政府自体が認識せざるを得ない状況なのです。

私達が被災者の救援を続けている、ウクライナ国ジトームル州では、出産異常が50%にも達しているにもかかわらず、経済的、社会的混乱により、医薬品、医療機器が底をつき、被災者の状況は日毎に深刻になりつつあります。現地から届けられる人々の生の声はたった一回の原発事故のもたらしたものが、どれほど取り返しつかないものかを伝えてあります。

しかし、他方で1991年に発表された国際原子力機関（IAEA）のチェルノブイリ報告（団長：放射線影響研究所 重松逸造理事長）では、「放射能に直接起因すると見られる健康被害は見られなかった」「政府発表のデータでは白血病、癌の発生では顕著な増加は見られない」と、事実とは余りにも異なる見解が述べられています。この報告は、現に存在し、日々被曝の苦しみの中で生きているチェルノブイリの「ヒバクシャ」を抹殺するに等しいものです。

この度、49年前原爆を投下された広島で「日本原子力産業会議」が開催され、原子力の平和利用について議論されるという。しかし、核兵器と並んで原子力の平和利用もまた、世界中で「ヒバクシャ」を生み続け、人々の命と暮らしを根幹から破壊して来たことは、半世紀に及ぶ原子力開発の歴史を見れば明かです。世界中が原子力から撤退しつつある今、IAEA事務局長はじめ、世界中から専門家を招いて殊更に「ヒロシマ」で原子力推進の会議を開くことは、世界中の「ヒバクシャ」に対する挑戦であり冒涇です。

私たちが今なすべきことは、原子力の更なる推進ではなく、原子力開発がもたらした悲劇を省みて、その過ちを繰り返さず、世界中でも今も生み出されている「ヒバクシャ」の救済を行う事ではありませんか。私達は、チェルノブイリの被災者を救援する者として、この度の日本原子力産業会議が掲げる「日本のプルトニウム利用の本格化、核燃料サイクルの必要性、高速増殖炉開発、アジアへの原発輸出」等が、私達の未来に何をもたらすのかを考えた時、深い憂慮の念を禁じ

得ません。これらの目標が実現されたとき、私達だけでなく世界中の人々が「ヒバクシャ」の運命を背負わされることになるでしょう。「ヒロシマ」と「チェルノブイリ」を繰り返さないために、原子力推進から一日も早く手を引き、放射能の脅威から自由になることを願って、世界の流れに逆行する原子力産業会議年次大会に強く抗議します。

以上

講演会開催：私の見たチェルノブイリ

救援・中部メンバーで先回現地を訪れた河田昌東さんが「私の見たチェルノブイリ」という題で講演会と交流会を開催します。コンクリートで覆われたチェルノブイリ原発の様子をまた現地の病院やウクライナの生活の様子等を現地撮影した豊富なスライドを使いながら専門家（理学）の立場から分かりやすくご紹介します。

お近くの方はどうぞ最新のチェルノブイリ報告をお聞き下さい。

日時：6月12日（日）午後1時より

場所：岐阜市大門町12 上宮寺（鷺谷トンネル近く）にて

入場料500円 問合せ：TEL0582-65-3868（小笠原）

事務局維持会員入会のご案内

チェルノブイリ救援・中部では膨大な事務作業をこなすために一昨年3月に事務局を開設しました。長期の救援を行うために皆様の維持会員を募っています。救援活動を続けるため入会をお願いします。

◎維持会員入会費 10,000円/年（または1000円/月）

郵便振替口座：名古屋8-108610

（*通信欄に必ず維持会員申込みと記入して下さい）

尚、皆様の維持会費から支払われている「救援・中部」の専従職員山盛さんの時給を、5月に開催した定例会議で800円から1000円にアップすることが認められました。

について：救援・中部では皆様からの寄付金の使用についてより厳重
 するため会計監査を定期的に実施することを義務付けしました。

は救援・中部会議委員と異なる第三者を依頼することとし、今年一年
 中良明さんと杉江砂美奈さんをお願いし今回下記の内容について了承
 されました。

り救援・中部 会計報告 ('93.10.1~'94.3.31)

部	支出の部
8,131,025	医薬品代 9,586,017
	医療機器代
(867件) 4,585,945	超音波診断装置 2,266,000
(62件) 3,518,053	自動血圧計、保育器 2,101,200
費寄付金	その他の救援物資 48,894
(57件) 290,500	救援物資輸送費 1,342,610
(9件) 330,000	消防士訪日関係 289,100
タイ預金 6,888,000	ウクライナ渡航費 604,730
入 307,628	ポスター等印刷費 300,368
記載漏れ 26,9480	コピー代 164,427
料 10,000	郵送料、通信電話代 310,868
62,260	出版費用 131,840
28,783	家賃・光熱費 335,191
	人件費 222,090
	出張旅費 6,840
	備品・消耗品・修理費など 95,388
	次期繰り越し 6,616,111
計 24,421,674	合 計 24,421,674

パをお送りくださった皆様へ

上に伴い領収書の発行を一時停止していましたが様々に討議した結
 パを送って下さった皆様全てに従来通り領主書を発行することにし
 一時ご心配をおかけしましたが、領収書の送付が遅れましたことを

声・声・声 ～ りょう君、ゆきちゃんからのカンパ～

今年3月、岐阜県可児市在住の金子りょう君（小五）、ゆきちゃん（小二）のお父さんが交通事故で亡くなりました。ゆきちゃんは以前行われていたチェルノブイリ救援コンサートのことを覚えていて、お父さんが事故の時所持していたお金の一部を救援・中部に寄付して下さいました。ありがとうございました。

＊ ＊ お知らせとお願い ＊ ＊

・ボレーシェの発行を今回のみ郵便料金等を考慮し3ヶ月間休止していました。ご心配をおかけしました。来月号より隔月の発行となります。

・文通をしている皆様へ 郵便料金の高騰は日本よりもウクライナの方がすさまじいようです。昨年6月と比較してみますと、現地から日本へ手紙を送るのにかかる郵送代金は今年約170倍に上がりました。現地通貨（ルーブル）を私達が救援を開始した1990年と対ドルレートで比較しますと実に3500倍にもなっています。文通が途絶えたという方が多いかと思えます。現地の実状は現在このようになっています。

・「たった一回の原発事故で」（救援・中部 編）が地湧社より発売されています。ご希望の方は地湧社または救援・中部まで。一冊515円+送料51円

地湧社：郵便振替口座 東京2-36341

東京都千代田区神田東松下町十二番一号（ミトモ第二ビル）

・「とどけウクライナへ 私たちの救援日誌」（坂東弘美著 八月書館） 定価1648円 書店または救援・中部までご注文ください。

・被災地の家族や子供たちから届いた沢山の手紙や絵が「絵はがき集」になりました。1セット5枚で300円です。救援・中部まで直接お申込みください。

・チェルノブイリ救援・中部のテレフォンカード 一枚1000円5.0度数。

・現地ジャーナリストのネチポレンコさんおよび小児科医師ライサさんの来日講演録全文。専門家の解説つき 一部350円。

チェルノブイリ救援・中部（郵政省処理システムの変更に伴い下記の郵便振替口座 00880-7-108610、に変更されました。尚、旧振替用紙と番号でも振込は可能です。旧番号：名古屋8-108610）

事務局 〒466 名古屋市昭和区楽園町137-1-10

TEL.FAX:052-836-1073（月、水、金曜日10:00-15:00） 代表：寺町みどり

（問い合わせはなるべく郵便で、できれば切手を添えた封筒を同封してください）